

学校法人 青山学院
2016年度 事業計画書



Aoyama Gakuin since 1874

目次

はじめに・AOYAMA VISION 構成図	2
AOYAMA VISION 達成のための重点施策の概要	3
学院および各設置学校の事業計画	
I. AOYAMA VISION 達成のためのアクション	4
1. 7つのアクション	4
ACTION 1 サービス・ラーニング	4
ACTION 2 SEED+青山グローバルスタンダード	5
ACTION 3 5大陸をつなげる国際教育	5
ACTION 4 キャリア教育・海外インターンシップ	8
ACTION 5 Aoyama Global Passport System (AGPS)	8
ACTION 6 IAMSCU リサーチ大学コンソーシアム	8
ACTION 7 総合大学院と独創的な研究拠点構築	9
2. その他のアクション	10
(1) 教育力の向上	10
(2) スチューデント支援	11
II. 青山学院グローバルアカデミックタウン	12
1. 地域・社会との連携	12
2. 各設置学校等の連携	12
III. 学院を支える基盤整備	13
1. キャンパス再開発	13
2. 財政基盤の強化	13
3. 組織・運営体制の充実	14
4. 内部質保証	15
IV. その他	16

はじめに

青山学院は、2014 年の創立 140 周年を機に、150 周年に向けての新たな一歩を踏み出すため、「AOYAMA VISION」を策定しました。その実現に向けた実質的なスタートの年である 2015 年度は、各設置学校や各部署がそれぞれの取り組みを行うだけでなく、総合学園という特色を最大限に活かすために、設置学校間が連携して取り組むべき新たな施策について教職協働の「横断的プロジェクト」を立ち上げるなど、新しい形での検討も開始しました。今後こうした取り組みを一層深化させ、AOYAMA VISION の実現を図ってまいります。

2016 年度事業計画書は、青山学院が教育機関としての使命を果たし、AOYAMA VISION を実現していくために、各設置学校や各部署が策定した 2016 年度事業計画の概要を記したものです。すべての取り組みを網羅しているものではありませんが、具体的内容をご確認ください。

A O Y A M A V I S I O N

MISSION

建学の精神

青山学院の教育は、永久にキリスト教の信仰にもとづいて、行われる。

教育方針

青山学院の教育はキリスト教信仰にもとづく教育をめざし、神の前に真実に生き真理を謙虚に追求し愛と奉仕の精神をもってすべての人と社会とに対する責任を進んで果たす人間の形成を目的とする。

スクール・モットー

地の塩、世の光

VISION 2014-2024

すべての人と社会のために 未来を拓くサーバント・リーダーを 育成する総合学園

今、世界が必要としているのは、自分の使命を見出して進んで人と社会とに仕え、その生き方が導きとなる人、サーバント・リーダーです。

青山学院が育むサーバント・リーダーは

リベラルアーツ・
深い専門知識

他者を敬い
違いを受け入れる心

人と社会に
仕える行い

Sincerity
Simplicity

を兼ね備えた人、すなわち「地の塩、世の光」を体現する人物です。

ACTION

AOYAMA VISION 達成のための 3つのテーマ 7つのアクション

オール青山による
個に応じた成長支援

世界と地域に
開かれた学院

卓越した知を創造する
研究共同体

ACTION 1 サービス・ラーニング

ACTION 2 SEED+
青山グローバルスタンダード

ACTION 3 5大陸をつなげる
国際教育

ACTION 4 キャリア教育・
海外インターンシップ

ACTION 5 Aoyama Global
Passport System

ACTION 6 IAMSCU リサーチ大学
コンソーシアム

ACTION 7 総合大学院と
独創的な研究拠点構築

ACTION 1 サービス・ラーニング

サーバント・リーダーの育成には、他者に仕える精神を持ち、それを実践的に学ぶサービス・ラーニング（奉仕活動等を通じた主体的学習）が欠かせません。青山学院では、他者に仕える行い（サービス）の実践として、各設置学校で行われているボランティア活動、その他の多様な活動を「学び」として系統立て、全学院的にサービス・ラーニングを展開します。

ACTION 2 SEED+青山グローバルスタンダード

初等部から高等部の12年間で実現した英語一貫教育を大学につなぎ、青山学院大学独自の教養教育「青山スタンダード」を次世代型の「青山グローバルスタンダード」に進化させます。スタンダード科目、学部専門科目に英語講義科目を増やし、英語のみで卒業できる体制も整えます。

ACTION 3 5大陸をつなげる国際教育

「世界の中の日本の学校」として創立以来引き継いできた国際教育を更に発展させ、グローバル一貫教育を推進します。大学では、IAMSCU（国際メソジスト関係学校・大学連盟）ネットワーク等を通じ、世界5大陸をむすぶ新たな国際高等教育連携を実現します。

ACTION 4 キャリア教育・海外インターンシップ

自分を知り、自分らしさを発見し、社会につながる機会を提供することで、一人ひとりの可能性を広げます。各学校で成長段階に合わせた職業観・キャリア教育を行い、大学では海外インターンシップを展開することによって世界を舞台に活躍する人材を育成します。

ACTION 5 Aoyama Global Passport System (AGPS)

21世紀には学力だけではなく、国際的活動やサービス・ラーニング等の様々な学び、経験を通じた人間教育が問われます。青山学院では、豊かな人間教育を進めてきた経験と蓄積を活かし、成績だけではなく多面的な能力・学びをオール青山に共通する「成長ポートフォリオ」として記録し、グローバルなサーバント・リーダーを育てるための取り組みを進めます。

ACTION 6 IAMSCU リサーチ大学コンソーシアム

グローバルスタンダード教育と卓越した研究を推進するために、IAMSCU リサーチ大学のコンソーシアムを構築するとともに、そのハブ校として国際共同研究や交換留学、faculty exchange等を積極的に推進し、アジアの高等教育リーダーを目指します。

ACTION 7 総合大学院と独創的な研究拠点構築

急速かつ劇的に高度化・複雑化しつつある時代の変化に対応できる人材ニーズに応えるため、学部基礎を置く大学院と専門職大学院の総合化を実現し、研究体制、次世代研究者養成体制を整備します。

青山学院グローバルアカデミックタウン

7つのアクションを通じ、青山と相模原の2つのキャンパスの特性を活かし、地域と密接に交流しながら、世代をつなぎ、人と社会に貢献する研究教育を世界に向けて発信するベース＝「グローバルアカデミックタウン」を創造します。

飛躍する学院を支える基盤整備

AOYAMA VISION 達成に向けた諸事業を推進し、質の高い教育・研究活動を永続的に行うために、その基盤となる「施設設備計画（キャンパス再開発10年計画の策定）」、「財務基盤の強化」、「組織・運営体制の充実」に取り組みます。

I. AOYAMA VISION 達成のためのアクション

1. 7つのアクション

ACTION 1 サービス・ラーニング

サービス・ラーニングの推進【学院】

AOYAMA VISION において、サーバント・リーダー育成の要諦として 7 つのアクションの 1 番目に置かれているサービス・ラーニング推進のため、2015 年度は初等部から大学までの教職員による教職協働のプロジェクトを立ち上げ、現状の把握と課題の整理を行いました。2016 年度はこのプロジェクトからの答申をふまえ、青山学院ならではのサービス・ラーニングの理念と役割の明確化と共有、既に各設置学校で意欲的に進められているサービス・ラーニングに係るプログラムの可視化と系統化、学院の一貫した教育プログラムとして展開していくための体制の構築等につき、学院全体で検討を進めます。

パラリンピック・パラスポーツ協力の取り組み【学院】

青山学院では、既に大学を中心にパラリンピック・パラスポーツ推進のための取り組みを進めてきましたが、2016 年度より学院全体として取り組みを展開することとし、普及啓発イベントに協力するとともに、初等部・中等部・高等部において、パラスポーツ体験授業などパラリンピック教育も実施することとなりました。日本財団パラリンピックサポートセンター主催「パラ駅伝 in Tokyo」への協力、盲人マラソン選手のための伴走者（ガイドランナー）の育成・普及、パラリンピアンを招いての初等部での体験授業等、多様な取り組みを実施します。

東京オリンピック・パラリンピックの支援に関する情報収集および具体的施策としての学生ボランティア活用の検討、関連イベント実施【大学】

大学では、2015 年度に 5 つの柱からなるグローバル化ポリシーを定め、青山学院の伝統的特色であるグローバル教育と国際交流の強化を宣言しました。その柱の一つ「地域貢献」の一環として行っている東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会との連携協定にもとづく取り組みは、各自治体との連携・スポーツイベント開催・ボランティア活動の取り組みを通じて、東京オリンピック・パラリンピック成功への貢献とグローバル化ポリシー実現につなげるもので、学生が支援活動の計画・立案段階から積極的に参加することで、世界の様々な国や人々と理解を深め、グローバル人材への成長の一助となることを目指しています。

ボランティアセンターの開設【大学】

学生へ多様なボランティアの機会を提供する、社会と学院をつなげる中間支援組織としてのボランティアセンター開設に向け、検討を進めています。2016 年度はボランティアセンター設置準備委員会を立ち上げ、組織の理念や位置づけ、規則整備、運営体制の検討等、開設に向けた具体的準備を行います。

大学におけるサービス・ラーニングの在り方の検討【大学】

2012 年の文部科学省中央教育審議会の答申をはじめとして、今後日本の学校が採用すべき有効な教育手法の一つとしてアクティブ・ラーニングがあげられているのは周知のとおりです。学校教育においては、地方公共団体や企業を含む学外の組織、団体と協力ないし連携し、社会貢献等の実践的活動を通じて人間教育を進めるという意味で、サービス・ラーニングはアクティブ・ラーニングの有力な一形態と捉えることができます。大学では、アクティブ・ラーニングの一手法としてサービス・ラーニングの活用を図り、教育の質的向上を目指します。

【各設置学校におけるサービス・ラーニングに係る継続的な取り組み例】

学院	幼稚園から大学まで各教育課程を横断するフィリピン訪問プログラム
大学	地方自治体との各種協定に基づくボランティア活動、地域振興支援 ボランティア・ステーションによる各種活動（渋谷地域における清掃活動・福祉支援、フィリピン等における国際協力、東北地方における復興支援活動） サークル、ゼミ単位での国内外における各種貢献活動 青山スタンダード科目「サービス・ラーニングⅠ・Ⅱ」
女子短期大学	宮古市内児童・生徒に対する教育支援活動等被災地支援ボランティア活動 現代教養コア科目「共生社会実習 A」
高等部	東日本大震災の被災地の学校との交流
中等部	養護老人ホームの慰問やハンドベル部の奉仕
初等部	滋賀県にある止揚学園への短期留学 鎌倉薫風学園ラファエル会・日本豊話学校への訪問

ACTION 2 SEED+青山グローバルスタンダード

英語による授業の拡充【大学】

将来世界で活躍できる学生の育成と、留学生の受入・派遣等留学の促進に必須となる英語による授業の拡充を進めます。全学共通の教養教育である青山スタンダード科目でも 2015 年度より主要科目である「キリスト教概論Ⅰ」をはじめ、個別科目でも英語による授業を開始しており、2016 年度は新たに「キリスト教概論Ⅱ」で英語による授業を開講します。今後も青山スタンダード科目の各領域と専門教育科目で、開講に向けた検討を進めていきます。

ACTION 3 5 大陸をつなげる国際教育

IAMSCU*1 と ACUCA *2 を通してのキリスト教国際教育・研究の推進【学院】

IAMSCU と ACUCA との関係活動を強化し、キリスト教国際ネットワークを活かすことでグローバル教育・研究を発展させ、園児・児童・生徒・学生に対し、より充実したキリスト教教育を行います。2016 年度は、二つの組織に関係する活動の学内への周知と、

協力体制の構築を目指します。

- *1) IAMSCU : International Association of Methodist Schools, Colleges, and Universities
(国際メソジスト関係学校・大学連盟)
- *2) ACUCA : The Association of Christian Universities and Colleges in Asia
(アジア・キリスト教大学協会)

ASEAN 諸国との交流の拡充【大学】

EU に次ぐ地域協力機構として躍進を続ける ASEAN 諸国の大学との協定、語学文化研修等を更に促進し、交流の一層の充実を図ります。

2 学期制の具体化【大学】

2017 年度に 2 学期制を開始するため、「学期制検討ワーキンググループ答申書」をもとに、学期制開始に係る制度および運用方法を検討し、準備を行います。

言語表現能力に秀でた学生の育成【大学】

グローバル化ポリシー「Multi-lingual Education」の観点から、日本語での専門教育・外国語教育のあり方を再検討していきます。

「青山学院大学学生寮」の利用状況の検証と国際学生寮についての検討【大学】

多様な価値観を持つ日本全国・世界各地から集う学生たちが、共に学び生活することで相互理解を深め、コミュニケーション能力の涵養を可能とする国際学生寮は、本学のグローバル人材育成の場として大きな役割を果たすものです。既存の学生寮の活用も視野に入れ、2017 年度開設を目指し国際学生寮の検討を進めています。

オセアニア地域諸大学との交換研修の実現【女子短期大学】

ニューイングランド大学（オーストラリア）の学生海外研修プログラム（ニューコロポ計画）と子ども学科学生の交換研修を実施します。2016 年度は 12 名の学生が来学し、本学の授業を共に受け、お互いの国の文化や、保育システム、保育実践等について理解を深めていきます。また学生同士の交流に限らず、本学の幼稚園児との交流、ニューイングランド大学教員による講演会の実施、教員間のディスカッション等も実施する予定です。

文部科学省スーパーグローバルハイスクール（SGH）の取り組み：高等部カリキュラム上における位置づけの明確化【高等部】

スーパーグローバルハイスクールに関連した各種取り組み*3 と全校生徒が学ぶカリキュラム内での関係づけを行い、留学・交流を経験した生徒が学んだことを全生徒に普及することで、新しい「多文化共生」の時代に向けた教育を目指します。2016 年度は、現在総合学習として行われている礼拝の中にスーパーグローバルハイスクールの取り組みを位置づけるとともに、「平和共生ログブック」*4 の総合学習への取り込みを目指します。

- *3) 海外提携校（英国イートン校、リーススクール、イタリアパスカル校）との交流、多文化共生キャンプとアジア地域の留学生との交流、都内アテンドプログラム・フィリピン訪問プログラムの実施、フェアトレードへの取り組み、東北の被災地の学校との交流等
- *4) 様々な教科を横断した総合的な平和・共生学習の記録ノート。2～3年次につけて、一つのテーマを決めて研究論文を書くよう構成されている。

日常の保育の中で海外の文化や異言語に触れる経験を増やす【幼稚園】

学院の一貫教育の基礎である幼児教育を担う幼稚園では、保育の中で自然に海外の文化や言語に触れる体験を実践しています。海外の言語で書かれた絵本を増やし、異文化を背景に持つ方を招いてその国の踊りや絵本等を紹介していただく一方で、「着物」「歌舞伎」「邦楽」等の伝統文化に触れ、日本のことを知る経験も増やしていきます。また、12月には女子短期大学と交流研修を行うニューイングランド大学（オーストラリア）の学生との交流の時を持つ予定です。

【各設置学校における国際交流・国際教育に係る継続的な取り組み例】

大学	留学可能な 90 校の協定校への留学 MISEN Program*5 ACUCA SMS Program*6 JSAF スタディアブロードプログラム*7 夏期・春期期間の海外語学・文化研修 一般学生と留学生との交流を目的とした外国人留学生チューター制度 秋期留学生文化研修 国際交流の会
女子短期大学	米国の 3 つの姉妹校との交流 夏期・春期休暇期間の短期留学 共生社会実習 キリスト教学実践で行っているアジア諸国へのスタディ・ツアー実習
高等部	イギリス・リース校、イートン校、イタリア・パスカル校との交流 カナダ・ホームステイ・プログラム
中等部	オーストラリア・ホームステイ・プログラム 梨花女子大学附属中学校との交流プログラム
初等部	オーストラリア・ヌッサーのグッドシェパード校およびグレース・ルーザラン校とのホームステイプログラム

*5) 本学が加盟する MISEN 加盟校への留学プログラム

MISEN : Methodist International Student Exchange Network (メソジスト国際交換留学ネットワーク)

*6) 本学が加盟する ACUCA 加盟校への Student Mobility Scheme による留学プログラム

ACUCA は P.6 *2) を参照

*7) 本学が日本スタディ・アブロード・ファンデーション (JSAF) と協定を結び、JSAF が協定を結んでいる海外の大学の一部を認定校として承認し、学生を派遣するプログラム

ACTION 4 キャリア教育・海外インターンシップ

海外インターンシップの拡大【大学】

海外インターンシップの充実を図り、グローバルな環境で働くことで、社会（企業）から求められている力（主体性、実行力、課題発見力、ストレスコントロール力、英語力）を身に着ける機会を多くの学生に提供し、海外派遣プログラムの多様化を推進します。

【各設置学校におけるキャリア教育に係る継続的な取り組み例】

大学	主要私立大学の中でトップクラスの就職率と高い「進路・就職先満足度」を支える豊富な支援行事 手厚い個別相談 独自の就職情報提供 教員・スタッフ・卒業生が一体となったバックアップ体制等
女子短期大学	少人数ゼミやライフ・キャリア・デザイン科目をカリキュラムに配置 メンター教員・学生課職員・常駐キャリアカウンセラーなど教職員一丸となった支援体制等
高等部	大学・短大との連携による学問入門講座の実施
中等部	中等部卒業生を中心とした、各界で活躍する方を招いての講演会の実施
初等部	初等部の同窓会である「くすのき会」が様々な職種の卒業生の方を招いて、5・6年生を対象に「ようこそセンパイ」を実施

ACTION 5 Aoyama Global Passport System (AGPS)

Aoyama Global Passport System の構築【学院・各設置学校】

幼児教育から高等教育までの系統的な学びの中で、在学生一人ひとりについて、正課の成績等現状の記録に加え、サービス・ラーニングや留学を含む正課外の学びも記録し、学院としてそれらの経験を証明するシステムの構築を目指します。自らの学びの履歴を振り返り、課題の確認および目標設定を可能とすることで、在学生の主体的な学びと成長を支援するとともに、青山学院の教育の核である人間教育を可視化し、他校とは異なる一貫教育の独自性を広く周知させます。

ACTION 6 IAMSCU リサーチ大学コンソーシアム

IAMSCU*8を通じた国際教育・研究の推進【学院・大学】

IAMSCU との関係活動を強化し、メソジスト関係学校の広範囲にわたる国際ネットワークを活用した教育・研究の発展に貢献します。特にリサーチ大学コンソーシアムの設立に注力し、アジアの高等教育をリードするハブ校としてメソジスト高等教育のベストプラクティスの探求、教員の研究活動と教員研修（FD）の促進、加盟校から優秀な卒業生の輩出の支援を目的とした活動を推進します。具体的には、MISEN*9 交換留学ネットワークを通じた学生の交換留学の活発化、共同研究およびFD等を予定しています。

*8) P.6 *1) を参照

*9) P.7 *5) を参照

ACTION 7 総合大学院と独創的な研究拠点構築

全学的な社会人教育を目指した大学院制度の検討【大学】

社会人教育の拡充を目的として、学長指名委員から成る委員会を立ち上げ、専門職大学院も含めた全学横断的な大学院制度を検討します。

グローバルな先端研究の促進【大学】

理工学部・研究科を中心に獲得している受託研究等の一層の拡充および青山キャンパスでの展開を図り、大学の財政力強化につなげます。またそのために、先端研究成果の財産権保護を図り、企業との連携促進のための諸制度を整備します。

2. その他のアクション

(1) 教育力の向上

①教育の質と学習意欲の向上につながる制度・体制の整備

アクティブ・ラーニングの事例集の作成と公開【学院・大学】

教育の高度化に向けた情報環境の整備の一環として、アクティブ・ラーニングの授業事例を記録・公開することにより普及を促進します。アクティブ・ラーニングを用いることが効果的な教育内容を検討するとともに、アクティブ・ラーニングに効果的な学修空間を設計・導入し、ICT の利活用も含めてどのような展開ができるか明らかにしていきます。

科目ナンバリングの検証【大学】

授業科目に適切な番号を付し分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示します。これにより、学生がレベル（学年等）や専門性を勘案して授業科目を履修することが可能となります。2016 年度は 2015 年度の検討結果をふまえ、科目ナンバリングの活用、例えば教育成果およびカリキュラムの検証等への展開も見据え、科目ナンバリング内容の検証を行います。

教育研究基盤システムの開発（全学的図書館システムとラーニングコモンズとしての図書館機能の開発）【大学】

これからの教育や研究の基盤となる新しい図書館への刷新で提唱されている 5 つのコンセプト実現のため、基礎となる「学習コレクション」「研究コレクション」の整備、学習支援体制や運営組織等の検討、青山スタンダード教育機構や各学部・学科等の関連機関と連携した上での全学的な図書館機能の運用計画を纏めます。また、それらの計画は現図書館で試行することで新図書館での円滑な運用開始につなげ、具体化した運用イメージは今後の建築設計に反映させていきます。2016 年度は、学修支援共同プログラム開発検討プロジェクトで進めてきた「教養講座」の継続、万代記念図書館で実施している学修支援が青山キャンパスでも行えるよう青山スタンダード教育開発センターと共同での検討、学習コレクション構築の検討を進めます。

②ICT を活用した教育の充実化

電子黒板・タブレット端末等 ICT 機器導入【高等部】

電子黒板・タブレット端末等 ICT 機器を導入し、生徒の自己教育力、表現力、創造力の育成と、個々の学習ニーズへ対応します。2016 年度はタブレット端末を用いた選択授業を開始し、ICT 機器を用いたアクティブ・ラーニングの高等部における先駆例とします。

教科型教室環境における新しい教材、教育ツールの導入【中等部】

中等部では校舎建て替えに伴い「教科センター型教室」を採用します。2016 年度は、2017 年度の本校舎使用開始に向け、各教科でのメディアスペースおよび ICT の活用

について検討し、活用方法を全教職員で共有していきます。

(2) スチューデント支援

運動から勉学までの総合的支援を行うスポーツ振興部局を設置【大学】

学内に活気を与えるだけでなく、学生・校友・教職員に愛校心・帰属意識をもたらし、社会へ優秀な選手や人材を輩出することにもつながるスポーツ振興に向け、運動から勉学までの総合的支援を行う、スポーツ振興部局の設置を目指します。

学生の健康に係る危機管理体制の再構築【女子短期大学】

メンタルヘルスを含む学生の健康に係る危機対応のあり方の見直しを通じて、合理的に機能する危機管理体制を確立し、学生の健康維持・健康管理の充実を実現します。

経済的困窮学生に対する奨学金制度の拡充【女子短期大学】

経済的困窮学生に対する支援制度を拡充し、学びの継続を保証し、修学の機会を広げていきます。

II. 青山学院グローバルアカデミックタウン

1. 地域・社会との連携

チャットルーム改革推進【大学】

初等部生から大学院生までが、英語に限らず外国語を通じて国際交流・異文化交流を体験できる場として 2008 年に開設されたチャットルームは、学内の活動にとどまらず、ニューヨーク大学や東日本大震災の被災地の学校とのビデオチャットを使ったセッションや渋谷区民のためのセッションを通じ、地域社会との連携や社会貢献活動も幅広く行ってきました。2016 年度は、通常のチャットセッションに加え、英語資格試験に関するアドバイス、Academic Writing Center の開設、地域住民へのチャットルーム開放、職員の国際化支援、サマープログラム企画の立案と実施など、多様なニーズへの対応と、より積極的な社会貢献により、学院の更なるプレゼンス向上につなげます。

グローバルプログラムの実施【初等部】

夏期休暇前の 3 週間を使ってインターナショナルスクールの児童を受け入れ、今までにない形で児童の国際交流・異文化コミュニケーションを図ります。青山学院の伝統である国際交流・国際教育を青山という立地を活かして行う、初等部ならではのグローバル（Glocal）なプログラムです。

2. 各設置学校等の連携

キリスト教系学校等との連携強化【大学】

提携校である横須賀学院、系属校である横浜英和学院に続き、2015 年度、青山学院は学校法人静岡英和女学院と「教育提携」に関する協定を締結しました。今後もキリスト教学校教育同盟をはじめとする教育連携校、各地の伝統あるキリスト教系学校との連携を積極的に進めます。

【ルーティンで実施している設置学校間の連携プログラムの例】

大学・女子短期大学	単位互換制度
大学・高等部	高等部生徒による大学授業の履修 学問入門講座 国際理解・留学準備プログラム
大学・中等部	放課後の学習サポート
女子短期大学・高等部	学問入門講座
高等部・中等部	長期派遣留学生支援・指導
初等部・幼稚園	一緒に遊ぼう会

Ⅲ. 学院を支える基盤整備

1. キャンパス再開発

キャンパス再開発 10 年計画の策定【法人】

「キャンパス再開発 10 年計画」を策定し、質の高い教育・研究活動推進のため、建築も含めた青山・相模原両キャンパスの整備について、無駄や無理のない効率的な計画を策定し、実施していきます。2016 年度は、キャンパス再開発計画策定プロジェクトから提出される答申をふまえ、次のステップへと移行します。

青山キャンパスの再開発【大学】

学生および教職員の学習、教育および研究に対する充実した支援が可能となる、新図書館の建築構想をとりまとめます。

中部部校舎の建て替え【中部部】

2016 年度は、2017 年 4 月の新本校舎使用開始に向け、様々な準備を行います。全学年 8 クラス制と教科センター型教室導入のための準備をはじめ、2017 年 3 月予定の引越し、新校舎使用時の 2017 年度の行事等の検討・ルール策定、卒業生等への周知等、多岐にわたる準備を進め教育環境の充実を図ります。

保育の設備、環境の改善【幼稚園】

幼稚園の園庭には、設置から 50 年以上が経過している遊具があり、老朽化が目立つようになっています。おもちゃ等古い物を修理して大事に使うことを大切にしながらも、園舎建て替えまでの期間中、園庭遊具を整備し、子どもの安全と明るく衛生的な環境の向上を図ります。

2. 財政基盤の強化

財政基盤強化に向けた抜本的改革【法人】

少子化やグローバル化を巡る学校間競争がますます激化する中で、本学院が AOYAMA VISION のもとに長期にわたって発展を続けるためには、財政基盤の強化が必須となります。そのため、収入の安定的な確保とそれに見合った支出予算が組み立てられるよう、既に予算編成方法の見直しを行うなどの改革を進めてきましたが、2015 年度は、さらに収支構造検証のためのプロジェクトも立ち上げました。2016 年度はその検討結果をふまえ、財政基盤強化に向けた具体策の検討を進めるなど、抜本的改革に取り組んでいきます。

「青山学院 EVERGREEN 150 募金」の実施（第Ⅰ期）【法人】

2024 年の創立 150 周年に向け AOYAMA VISION の実現を財政面から支えるため、10 年間で 3 期に分け、「青山学院 EVERGREEN 150 募金」を実施しています。“オール青山”の精神で広く学院関係者にご支援をお願いするという趣旨をご理解いただけるよう、2016 年度はニューズレターや募金趣意書配付、積極的な渉外活動等により募金活動を継続していきます。

「青山学院維持協力会」会員数の増加【法人】

青山学院維持協力会は、本学院が建学の精神にもとづき充実発展していくために、1992 年の設立以来、皆様のご寄付によって基金を積み立ててまいりました。現在その運用果実の一部は在校生支援として「青山学院スカラーシップ」に拠出し、奨学金を給付しています。2016 年度は、会員数の増加につなげるため、「維持協力会」パンフレットの発行・配付、休眠会員への働きかけ、会員サービスの推進（会員カード発行、大学図書館利用、『青山学報』贈呈、エバーグリーン募金イベント等）を行い、青山学院維持協力会の更なる充実を図っていきます。

新校舎建築のための募金活動【中等部】

教育環境の整備・充実を実現するため、エバーグリーン募金推進本部と協力しながら、中等部が中心となり新校舎建築に特化した募金活動を展開します。2016 年度は、募金活動へのご理解とご協力をいただくために、中等部独自の募金趣意書の作成、緑窓会のご協力による趣意書の発送、「緑窓会の日」の募金アナウンス、募金活動につながる卒業生への働きかけ（イベント等）を検討するとともに、新校舎工事のホームページをリニューアルし、募金活動の強化を図ります。

3. 組織・運営体制の充実

(1) 広報の強化

広報戦略の再構築【法人】

長期的な展望に立った学院全体の広報戦略に基づく効果的な広報を展開するため、2015 年度は新たに広報戦略協議会を設置し、オール青山として全学院的に広報を実施する体制を構築しました。2016 年度は、ウェブサイトのリニューアル等を検討し、広報戦略を推進していきます。

青山学院所有の写真のアーカイブ化【法人】

学院・各設置学校が所有する写真を学院全体で共有するため、アーカイブ化の実施を推進します。2016 年度は、設置学校の現状をふまえた写真保管および契約等のガイドラインについての方向性を決定し、アーカイブ化に向けた具体的方策を実施していきます。

ホームページの改善【大学】

大学の広報業務を入試広報と大学広報に分割し、ターゲットを絞ったコミュニケーション活動を展開することで、各ステークホルダーとのリレーション強化と業務の効率化を図ります。

(2) 職員の能力開発支援の推進

学院の個性を発揮することのできるサーバント・リーダーとしての職員の育成【法人】

サーバント・リーダーの育成を目標に掲げる本学院として、まずは職員自身がサーバント・リーダーであることが求められます。そのために、新人研修、OJT 研修、メンター・メンティ研修などをとおして、本学院の果たすべき社会的な役割を理解するとともに、青山学院らしい人材輩出の一翼を担う職員の育成を目指します。

学校の国際化を支える職員のグローバル人材の育成【法人】

急速なグローバル化に対応するためには、職員のグローバル化も必須となります。グローバル人材とは、単に外国語を話せるスキルを持つことなく、積極的に海外の人々とコミュニケーションを図り、異文化や価値観の異なる考えを受け入れ、日本を正しく伝える能力を持つことが求められます。海外大学への出向研修や、海外大学職員の出向受け入れ、職員チャットルーム制度等を活用して、職員のグローバルセンスを養い、本学院全体の国際化に貢献できる人材の育成を目指します。

教育研究活動に対する職員の研修および支援・管理能力の強化【大学】

文部科学省中央教育審議会の「大学のガバナンス改革の推進について（審議まとめ）」において、「SD の義務化」等の制度改革が求められていることから、本学においてもSD を推進していきます。職員として必要な教育改革に関する基礎知識、学生・研究・経営支援に求められる知識やスキルを洗い出し、研修ポリシーを定義した上で研修計画の概要をまとめ、効果的な研修を実施します。

4. 内部質保証

教育プログラムとの整合性を自己点検・評価するためのカリキュラムポリシーの設計【大学】

カリキュラムポリシーにもとづく、教育プログラムの整合性の自己点検・評価およびその結果にもとづいた組織的改善の仕組みづくりを行い、質保証を図ります。

外部評価の導入計画の策定【大学】

現在運用している全学的内部質保証システムの客観性・妥当性を高めることにより、本学の内部質保証の取り組みを充実させます。また、2015 年度に続き、2016 年度も学内の内部質保証に対する理解を促すため、周知・啓蒙に取り組む予定です。

IV. その他

『青山学院 150 年史』編纂【法人】

年史の発行は、過去に学び現状を認識することで未来の構築につなげるとともに、学院のアイデンティティを確認し、先人たちの努力を顕彰する意味でも重要です。創立 150 周年での発行に向け、『青山学院 150 年史』の編纂を進めます。また 2016 年度は、年史編纂事業の一環として、年史編纂に資するとともに、今後、青山学院建学の精神を深く考察する際に参照されるものとして、『本多庸一 関係資料目録（仮）』を発行する予定です。

青山学院女子短期大学 65 年史通史編及び文集編の刊行【女子短期大学】

総合文化研究所創立 25 周年の記念事業として、2016 年 11 月 16 日に『青山学院女子短期大学 65 年史（通史編）』及び『青山学院女子短期大学 65 年史（文集編）』を刊行し、2017 年度の『青山学院女子短期大学 65 年史（資料編）』刊行に向けて準備を進めます。

初等部創立 80 周年記念事業の実施【初等部】

2017 年度に、初等部は創立 80 周年を迎えます。2016 年度は、『青山学院初等部 80 年史』編纂に向け、執筆者やインタビューの選考も含めより具体的作業を進めるとともに、周年行事の企画立案・スケジュール策定など、式典・行事の実施に向けても取り組みを行います。

〈補足事項〉

P.4 から P.16 に掲載されている法人執行部および本部事務部署が行う事業計画については、「教育・研究・学術」に係る計画を【学院】、「経営・管理」に係る計画を【法人】と表記しています。

地の塩、世の光
The Salt of the Earth, The Light of the World
【青山学院スクール・モットー】

学校法人 青山学院 2016年度事業計画書

(問合わせ先) 本部 総合企画部 03(3409)6384 内線 11338

※学院HPからもPDF形式にてご覧いただけます

ホーム > 青山学院の基本情報 > 青山学院のデータ > 財務状況 事業計画書・事業報告書

2016年3月24日 理事会承認 (2016年4月発行)